920

大師
○その間式方へ歩かるる
書院小姓
○ちょこちょこ
どう考ても平常者
小姓風の透
ひきあ
◐
◐ 逃げんとせしが
らち觀音院が決と捕へ
とするを聖はなぜくも面倒と
振捨てゆかんとすると若衆は逃
さず帯際取て引戻す
と再
び振
て逃
んと
拳ぶ牛角
坂本の方へ春の家
とちく紙せ
つきこ

佐和世羅
高砂さもう
あけぼのの
さらし
こ形の舞
中の巻

小田原
提灯と樽
さんおう組頭
中ふ
肌
夜風と踊り
来かゝる女
が何ぞ
捨れ
せず
二人が
弟ふと中へ入ッと

莫迦と提灯は面白くも見
と親父院がなぜくいなと
おゝ成せば其の雪女は
全身樽臣師く
あゝ
藤さ
臣と提灯
と揺る
とり
尚附まとふ美花の
あゝと拂さんとあせりてめづく
中ゝ家子紙入れ女ゞ図ゝ
ゝく取上るとまとまゞ付
親父院ゞ

つぎ 奪ふ人毛織ふ袋入の品があれ中ふ箱
数る一通の書紙と拾ふ服も色若
流を ☒
☒突退け足を未ふ
おの反今十と取て走りて
引被り
逸足也
て行とも足元
走り去りる
不測さふ
若流の
と

書も提灯を探しあん夫探りうる
拾ひ上る一通の書紙と固ふ遠すを
拙と抱えり不若流が扶ふ
如い膝をつき固ふ
を掃ひつ若流の後を追つて獨り伺ふ跡絶さる
此若流とおい何若るや後ふ自づとかる事あるべし
☒ 行方 むし 側へ 如へ

つゞき

一寸宅へ来ておくれ給　▼田の助がつぞやらう尋ねやうく
あらうつでも宅ゆゑ毎日物ゆるして
と云屋をつゞくて別を　今日と尋ねうんぶ外でもよい

わたくしが
あらう経過ても
書信をもて故安合
せると面白い雅なの
世作で疲ゆ本所様
紛とやらんゆきとよ
まゞゆて生先も
実ゆに知れねば本来ぶら生徒ゆ
恋ゆ生ゆ田の助の母

みて既ゆ新とも繁りと
とゆしと知れど離る
んいろく表面い姉よ
妹と互ひに睦むられ
ど姫さと長地の二ツ文字屋一の角文字
つのあ立つるいの自づと現つる中ゆ新
へ一疎烈しく千代吉が藤次と見つけて
心の眼と嬉さんと常ゆ
目とつけある事い千代吉も
知ゆ知ゆあられど強と窺
ひ今日を遅て面白楽所
恋の活合楽屋鍬川の二階ゆて田の助
ゆ五合人目と恐ぶ睦会のもるとれ

▼新
紗を
拾て
張りの
さま
うふし
合点が
ゆうゆ
ぶを
ある
うら
て紀まず

次へ

此所は千代吉が
田之助へ物
がたりの体と
あらわせし也
次へ

つぎ三 祖父さまと共ふ月夢を商ひ

おるふ娘が居ゆえ

弟子ト即ち生ぜり

拾ひしと形て

物編ふ者しるを

要しく活し

出来び私一人ぶ途方ふられ

▲あいて

▲あのツイ

※祖父さんハまゝ病をあつとひ

◎良菜でも海山あげて

困りて放ト谷山藤町の木賃

よく快くする様りで宵

宿へ後りしが

寄くるので菜の手当も

先と安と同の悪さといひ

掛てんづきオヤ私とて

十一で聰されども

あいれど呉ぬ

宿の伯母さんの

世話でお含と

田の助の教とさ

のぞき那同私い出

飛ゐのと不仮とそ

お方ぞと碑陳の

殺ぎも忘れてえ

知れど❶

教傳谷

吉あり

❶立加る

出家に成と

つるゆ都て世間のるでゆいと

寒々かるゝ吸つて後ハ力を蔵して※

借り私いあの

吉世俗一吉

女ふ英ゐれて

事ゆも祖父

さんに◎

送る門蔵して

ゆえれ

紗を拾ふて

返す

紐ふ

大ゆに

拾て長ゝゆが縁で

ゆあり二日外花火の晩

青柳で始めてあ

やうまか方と思ふ折柳の

次へ

二ツコリ
笑ひて男
側へヒタ
と寄る
汗も
あらに付
ふぶ出暑さと
肌ふおびるも
笑ひそ付と接世
と教へて伏代吉へあてふと
服と告て敵川の門辺ふ
えあろす田の
助と面へ合せ
唐芋いろ義出と笑ひて花御
屋ふあるとつコレふ代吉へく出
釈が永初で義出と
させて流行する
みも旅く出ると
と教を一ふある
のへ私も知と
ふ代吉へ
ふ立油ふ
残り
満腹ふ
戻りゲみ

出で
溜る
田舎出
田舎出
柳湯とい風呂屋へ立ち
寄りて急ぎ伝家へ帰る
ひるゝ皆母家へ
ぬるゝと上へ不便ぞと
思て出来兄弟ぞふ力と
あつてと怒ゝ身い果故あれ事も
釈母ゝく
味を湯桶義と寒材で
オイ番へ全体何所
へ行ゝ今生何と
ちそあるのゝナニ不
物さあ〻ふ湯へ
行ゝとへン湯屋へ何
所へ家へ引越ふあゝ共
出屋ゝ利者ふ出ゝ家の味
田舎出ふ帰ふあゝ共は大

芳川春濤閣
其名も高樓
毒婦の面影
岡本起泉編
東京奇聞 七編 ふしぎ切 十五編 近出板

芳川春濤閣
岡本起泉編
島田一郎梅雨日記 五編 ふしぎ切

芳川春濤閣
岡本起泉編
白鷺阿鼎繁顛末 三編 ふしぎ切

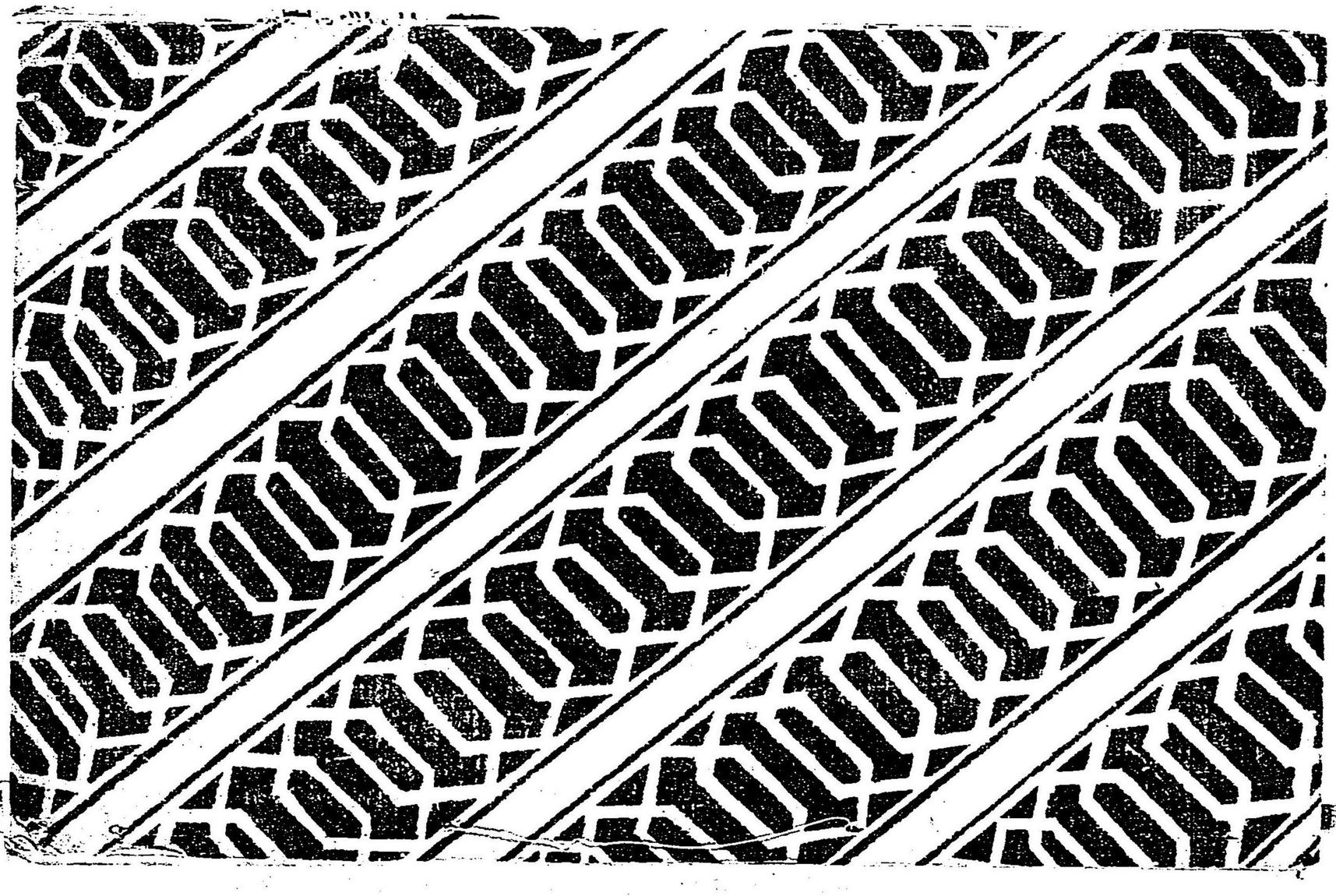
芳川春濤閣
岡本起泉編
坂東彦三郎一流 三篇 讀切

芳川春濤閣
岡本起泉編
御所櫻梅松錄 十五編 近出板

芳川春濤閣
岡本起泉編
命養生善惡鏡 折本 一冊

芳川春濤閣
岡本起泉編
摩村田之助曙草紙 五編 大尾

芳川春濤閣
岡本起泉編
徳川年代鑑 折本 一冊

亀地本錦繪問屋

勤町區春日町六十番地
編輯人 岡本勘造
淺草區瓦町十二番地
出版人 綱島亀吉